

授業科目 小児発声発語障害学演習

【担当教員名】 渡辺 時生、大湊 麗		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
○	○	○	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 機能性・器質性構音障害の評価、診断、治療を修得する。 吃音の評価、診断、治療を修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 機能性・器質性構音障害の検査を実施できる。 機能性・器質性構音障害の診断を実施できる。 機能性・器質性構音障害の治療を実施できる。 吃音の検査を実施できる。 吃音の診断を実施できる。 吃音の治療を実施できる。 事例を通じ、実際の治療、援助において連携を図ることができる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	構音検査法			1	演習
2	構音検査法			1	演習
3	発声発語器管の評価			1	演習
4	発声発語器管の評価			1	演習
5	機能性・器質性構音障害の評価、診断			2	演習
6	機能性・器質性構音障害の指導方針（1）			3	演習
7	機能性・器質性構音障害の指導方針（2）			3	演習
8	機能性・器質性構音障害の治療（1）			3	演習
9	機能性・器質性構音障害の治療（2）			3	演習
10	機能性・器質性構音障害のまとめ			1～3	演習
11	吃音検査法			4・5	演習
12	吃音 環境調整法と遊戯療法			6	演習
13	吃音 流暢性形成法と吃音緩和法			6	演習
14	吃音セルフヘルプグループについて			7	演習
15	吃音のまとめ			4～7	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 レポート 期末試験			【履修上の留意点】		